

二〇一三年七月二六日

葛畳奈落の海を隠しけり  
先客の猫に隣りて夕端居  
草取りに曲りし腰をマッサージ  
宇治の瀬の楽をそびらに歌碑涼し  
夕づつを揚げし川辺を避暑散歩

二〇一三年七月二五日

瀬の石に遊ぶ沢蟹見て飽かず  
梅雨湿りして夕刊の届きけり  
茶屋の灯の揺らぐ川面を鵜飼舟  
ムンク絵のごと叫びたきこの酷暑

二〇一三年七月二四日

館涼し文字躍動す大墨書

二〇一三年七月二三日

滝茶屋の窓にとびつく飛沫かな  
一声を合図に四方の蝉しぐれ  
道標をがんじがらめに蔦茂る  
鵜飼果て古都の端山の月高し

二〇一三年七月二二日

瀬の楽とハーモニーなす蝉時雨  
ゲリラ雨嘘のごとやみ月清し  
水上の茶屋が終点鵜飼果つ

二〇一三年七月二一日

検問や手招きされし片かげり  
道涼し塵拾ひつつ歩く人  
重き腰あげて選挙へ炎天下  
向日葵のうなだれてゐる運動場

二〇一三年七月二〇日

蝉にあらず圧力鍋が笛を吹く  
盆踊り主賓挨拶誰も聞いてをらず  
風生る苑の要の造り滝  
芝刈り機青き微塵をまき散らし  
干し梅のあけぼの色となりけり  
星空を縫ひゆく飛機の灯涼し  
奈落より瀬音のひびく夏料理

うつぎ

さつき

あさこ

あさこ

せいじ

満天

つくし

こすもす

はく子

雅流

さつき

毎日句会みのる選・二〇一三年七月二八日

雅流

ぼんこ

さつき

菜々

さつき

きづな

なつき